

令和6年人口動態の概要

人口動態統計は、人口の動向を恒常的に調査する基幹統計であり、国勢調査とともに我が国の代表的な統計となっています。人口の動的事象を統計的に把握し、行政施策の企画・立案をはじめとして、我が国の社会、経済の発展に欠くことのできない貴重な情報として多方面で活用されています。

人口動態統計を作成するための人口動態調査は、出生・死亡・婚姻及び離婚については戸籍法（昭和22年法律第224号）による届書等から、死産については死産の届出に関する規程（昭和21年厚生省令第42号）による届書等から市区町村長が作成する人口動態調査票をもとに厚生労働省政策統括官（統計・情報システム管理、労使関係担当）で集計されたものです。

令和6年人口動態調査の概要における、兵庫県分の市区町単位、保健所単位のデータは、厚生労働省のデータを基に兵庫県福祉部で集計したものです。

表1 令和6年人口動態の主な比率（圏域別）

圏域	出生		死亡			死産率 (出産千対)	婚姻率 (人口千対)	離婚率 (人口千対)
	出生率 (人口千対)	低体重児 の占める 割合(%)	死亡率 (人口千対)	乳児 死亡率 (出生千対)	新生児 死亡率 (出生千対)			
総数	5.9	10.1	13.1	2.1	1.3	19.8	3.8	1.59
神戸	5.3	9.8	12.2	1.8	1.1	21.6	3.7	1.56
阪神	6.1	9.6	11.8	2.2	1.5	18.0	3.9	1.56
阪神南	6.6	9.7	11.7	1.9	1.2	16.5	4.5	1.62
阪神北	5.3	9.4	11.8	2.7	2.2	20.6	2.9	1.48
東播磨	7.0	10.1	12.0	1.8	1.0	19.1	4.0	1.71
北播磨	4.3	13.6	14.1	3.7	1.9	20.0	2.6	1.43
播磨姫路	5.7	10.7	13.7	2.7	1.8	21.0	3.7	1.49
中播磨	6.2	11.0	12.7	2.9	2.0	19.7	4.2	1.54
西播磨	4.4	9.7	16.0	1.9	1.0	25.4	2.5	1.37
但馬	4.4	9.9	18.4	1.6	0.0	7.8	2.5	1.27
丹波	4.9	10.7	16.4	0.0	0.0	33.1	2.6	1.24
淡路	4.3	10.5	18.4	1.9	1.9	29.7	2.6	1.46

注1) 諸率の算定にあたって、総数は令和6年10月1日現在推計日本人口（総務省統計局）を用い、各圏域については推計人口（兵庫県統計課）を用いた。また、死産率の算定には、出産(出生+死産)千対を用いた。

注2) 平成30年4月の「兵庫県保健医療計画」改定での2次保健医療圏域の統合に伴い、阪神南圏域と阪神北圏域、中播磨圏域と西播磨圏域はそれぞれ統合され、現在は「阪神圏域」と「播磨姫路圏域」となっている。

出生（第1図）

兵庫県の出生の状況を年次推移で見ると（統計表第1節第2表参照）、出生数は昭和45年～49年のいわゆる「第2次ベビーブーム」をピークに年々急激に減少し、平成になってからはほぼ横ばいであったが、平成13年から減少傾向に転じている。

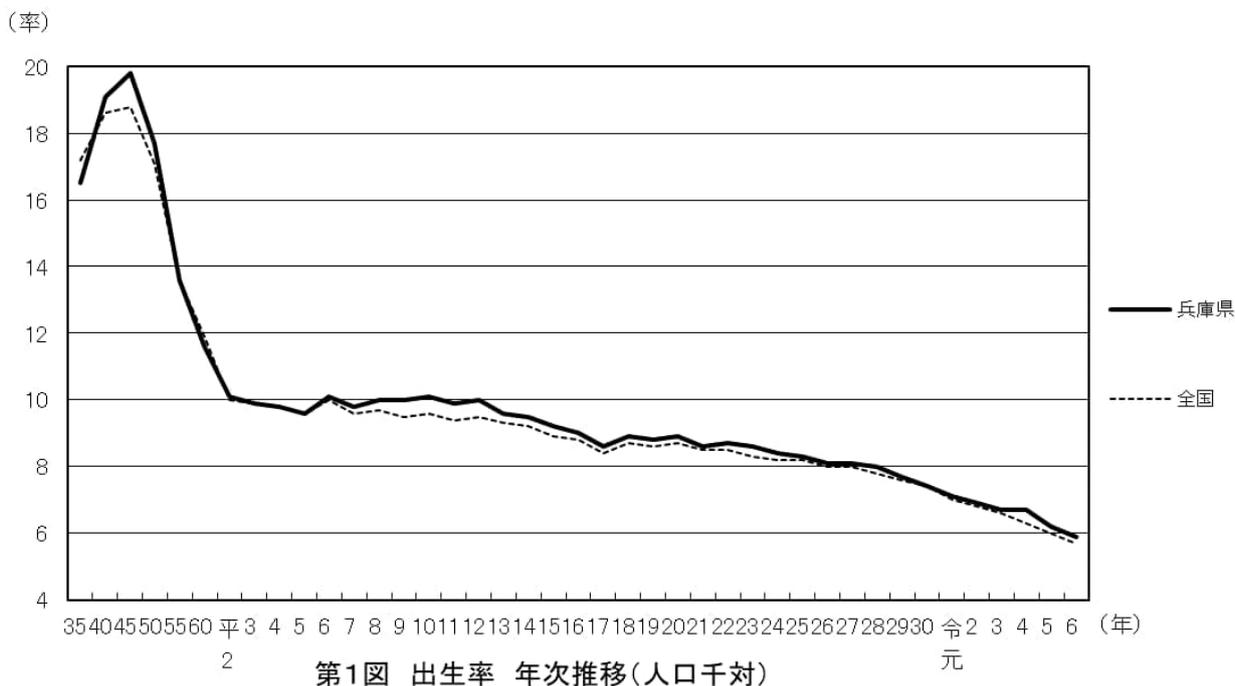
本年は、出生数30,535人、出生率5.9といずれも前年を下回り、昭和31年以降で最低となった。

出生率を圏域別にみると(表1)、東播磨が7.0、阪神南が6.6と高くなっている。

また、合計特殊出生率は昭和50年に2.00を下回ってからは下降傾向にあるものの、平成16年の1.24を底として、わずかながら上向きの兆候を示していたが、平成29年からは減少に転じ、本年は前年から0.06下降し、1.23となり平成16年を下回った。(同第2表)。

出生場所別では(同第6表)、99.9%が施設内での出生となっている。立会者別では、92.6%が医師の立会いとなっている。

出産順位別では（同第8表）、第1児が45.9%、第2児が37.0%となっている。出生に占める低体重児（2,500g未満）の割合は（同第9表）、10.1%と前年より0.8%増加した。（前年は9.3%）



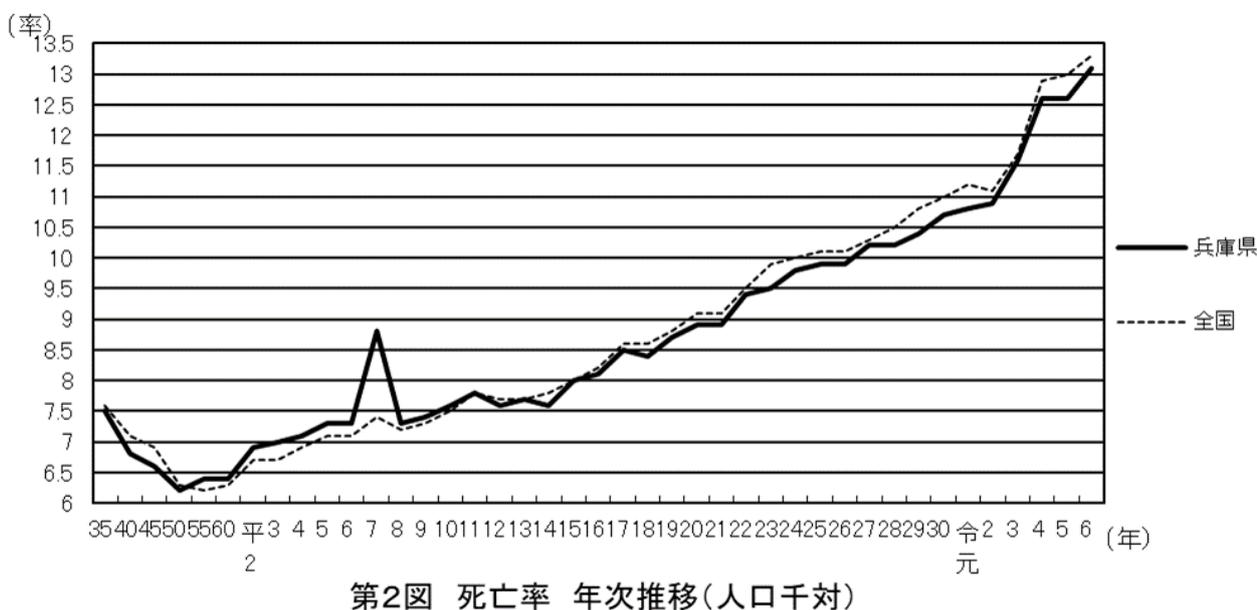
死 亡 (第2図)

兵庫県の死亡の状況を年次推移で見ると（統計表第1節第2表）、昭和40年代から50年代前半にかけて死亡数はほぼ横ばい、死亡率は減少傾向であったが、昭和50年代後半からは死亡数・死亡率ともに増加傾向となっている。

なお、平成7年は阪神・淡路大震災の影響で死亡数・死亡率ともに大幅に増加した。

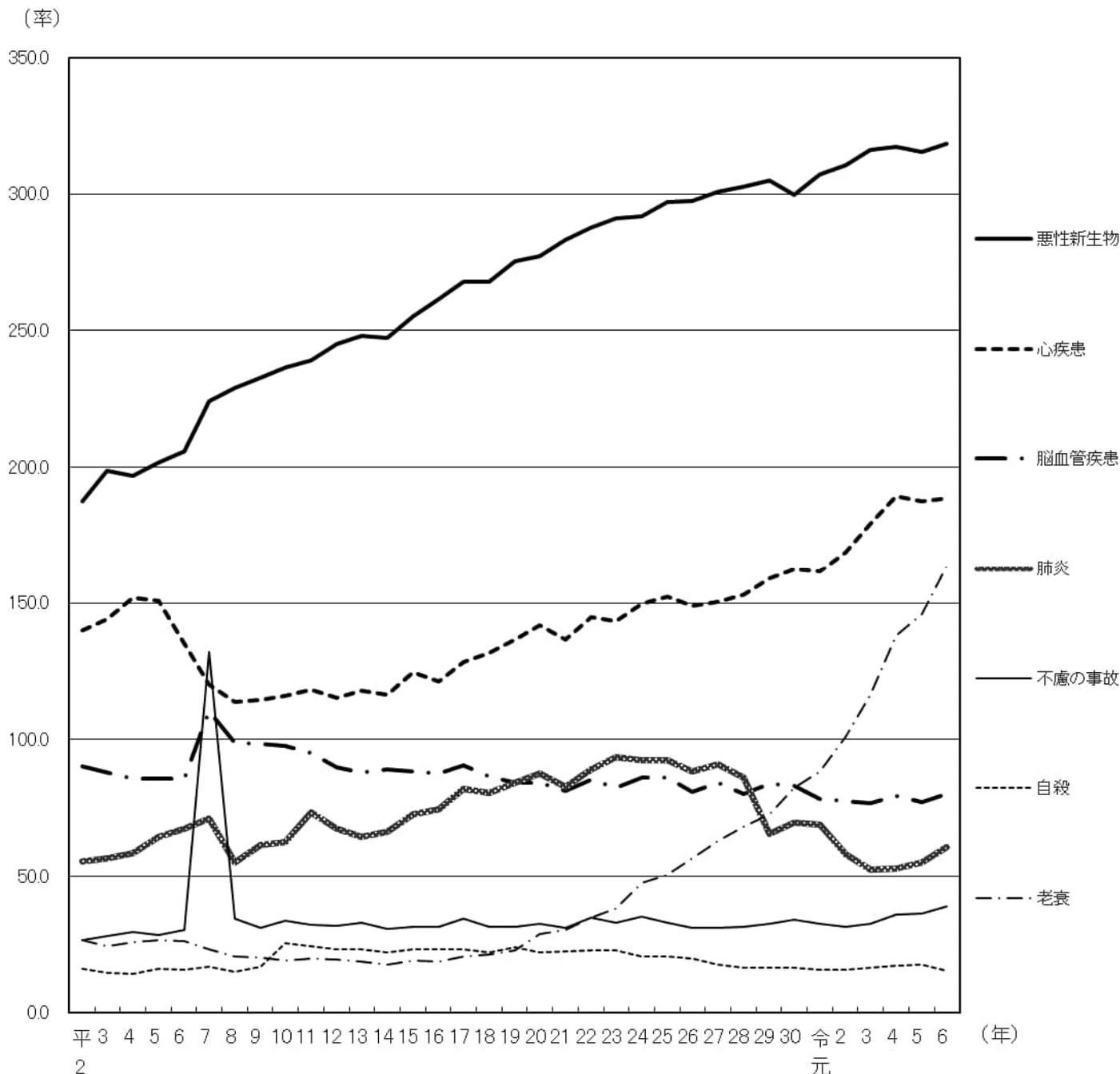
本年は、死亡数67,956人、死亡率13.1で、死亡数は前年より1,785人増加し、死亡率も0.5ポイント増加した。

また、本年も死亡数が出生数を37,421人上回ったため、平成20年以降、連続で自然減となり、その数は年々増加している。



死亡率を圏域別にみると（表1）、但馬、淡路が高くなっている。死因別では（第2-1図、次頁表2-1）、いわゆる3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）が全体の45.0%を占めている。また、3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡数及び死亡率はともに前年を上回った。

老衰による死亡数は8,506人で、脳血管疾患よりも多く、昨年より838人増加し、平成17年以降毎年増加している。肺炎による死亡数は3,167人で前年より284人増加している。自殺による死亡数は811人で4年ぶりに減少した。



第2-1図 主な死因別死亡率 年次推移(人口10万対)

表2-1 主な死因の死亡数・死亡率(人口10万対), 年次別

年次	悪性新生物		心疾患		脳血管疾患		肺炎		不慮の事故		自殺		老衰		腎不全		肝疾患		慢性閉塞性肺疾患		糖尿病	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和61年	9,043	173.0	6,503	124.4	5,115	97.9	2,058	39.4	1,307	25.0	1,065	20.4	1,559	29.8	724	13.9	926	17.7	・	・	416	8.0
62	9,031	172.0	6,662	126.9	4,773	90.9	2,186	41.6	1,187	22.6	1,028	19.6	1,443	27.5	722	13.8	929	17.7	・	・	405	7.7
63	9,373	177.6	7,194	136.3	5,012	95.0	2,491	47.2	1,278	24.2	1,030	19.5	1,569	29.7	800	15.2	964	18.3	・	・	455	8.6
平成元年	9,899	186.5	7,297	137.5	4,839	91.2	2,643	49.8	1,364	25.7	896	16.9	1,396	26.3	839	15.8	972	18.3	・	・	363	6.8
2	9,979	187.4	7,452	139.9	4,809	90.3	2,950	55.4	1,429	26.8	859	16.1	1,411	26.5	880	16.5	971	18.2	・	・	389	7.3
3	10,656	198.9	7,728	144.2	4,708	87.9	3,029	56.5	1,517	28.3	783	14.6	1,308	24.4	811	15.1	950	17.7	・	・	448	8.4
4	10,594	196.7	8,177	151.8	4,622	85.8	3,159	58.6	1,597	29.6	772	14.3	1,399	26.0	889	16.5	946	17.6	・	・	408	7.6
5	10,918	201.8	8,169	151.0	4,645	85.8	3,477	64.3	1,553	28.7	869	16.1	1,437	26.6	962	17.8	935	17.3	・	・	447	8.3
6	11,195	206.0	7,354	135.3	4,661	85.8	3,668	67.5	1,657	30.5	853	15.7	1,425	26.2	925	17.0	913	16.8	・	・	452	8.3
7	11,928	224.3	6,388	120.1	5,879	110.5	3,780	71.1	7,020	132.0	895	16.8	1,234	23.2	849	16.0	960	18.0	639	12.0	608	11.4
8	12,220	229.1	6,068	113.8	5,267	98.8	2,940	55.1	1,836	34.4	800	15.0	1,109	20.8	759	14.2	817	15.3	525	9.8	532	10.0
9	12,465	232.8	6,141	114.7	5,276	98.5	3,291	61.5	1,669	31.2	916	17.1	1,075	20.1	814	15.2	816	15.2	466	8.7	549	10.3
10	12,742	236.7	6,250	116.1	5,260	97.7	3,373	62.7	1,814	33.7	1,378	25.6	1,037	19.3	807	15.0	821	15.3	477	8.9	533	9.9
11	12,940	239.3	6,394	118.3	5,147	95.2	3,966	73.3	1,739	32.2	1,326	24.5	1,076	19.9	775	14.3	846	15.6	470	8.7	573	10.6
12	13,400	245.1	6,306	115.3	4,914	89.9	3,698	67.6	1,747	32.0	1,266	23.2	1,071	19.6	809	14.8	790	14.4	517	9.5	515	9.4
13	13,625	248.2	6,471	117.9	4,833	88.0	3,542	64.5	1,806	32.9	1,270	23.1	1,029	18.7	856	15.6	757	13.8	516	9.4	530	9.7
14	13,601	247.5	6,402	116.5	4,893	89.0	3,644	66.3	1,684	30.6	1,223	22.3	970	17.6	831	15.1	771	14.0	493	9.0	563	10.2
15	14,054	255.3	6,871	124.8	4,872	88.5	3,988	72.5	1,731	31.4	1,280	23.3	1,055	19.2	866	15.7	796	14.5	555	10.1	566	10.3
16	14,412	261.7	6,687	121.4	4,826	87.6	4,114	74.7	1,729	31.4	1,287	23.4	1,043	18.9	870	15.8	807	14.7	548	9.9	555	10.1
17	14,748	267.9	7,071	128.5	4,989	90.6	4,517	82.1	1,899	34.5	1,282	23.3	1,145	20.8	953	17.3	783	14.2	599	10.9	682	12.4
18	14,758	268.0	7,259	131.8	4,761	86.5	4,431	80.5	1,738	31.6	1,221	22.2	1,180	21.4	962	17.5	764	13.9	649	11.8	665	12.1
19	15,156	275.3	7,527	136.7	4,638	84.3	4,627	84.1	1,733	31.5	1,325	24.1	1,263	22.9	996	18.1	817	14.8	660	12.0	594	10.8
20	15,260	277.3	7,811	141.9	4,629	84.1	4,828	87.7	1,801	32.7	1,228	22.3	1,588	28.9	1,000	18.2	773	14.0	672	12.2	649	11.8
21	15,589	283.3	7,520	136.7	4,481	81.4	4,546	82.6	1,715	31.2	1,239	22.5	1,661	30.2	1,061	19.3	785	14.3	664	12.1	608	11.0
22	15,855	287.9	7,969	144.7	4,699	85.3	4,919	89.3	1,912	34.7	1,256	22.8	1,912	34.7	1,059	19.2	772	14.0	683	12.4	627	11.4
23	16,022	291.0	7,898	143.5	4,540	82.5	5,148	93.5	1,819	33.0	1,256	22.8	2,103	38.2	1,022	18.6	709	12.9	755	13.7	665	12.1
24	16,035	291.8	8,219	149.5	4,724	86.0	5,083	92.5	1,932	35.2	1,135	20.7	2,608	47.5	1,067	19.4	736	13.4	783	14.2	625	11.4
25	16,288	297.1	8,345	152.2	4,717	86.0	5,067	92.4	1,810	33.0	1,126	20.5	2,771	50.5	1,112	20.3	736	13.4	792	14.4	603	11.0
26	16,273	297.6	8,146	149.0	4,420	80.8	4,835	88.4	1,713	31.3	1,080	19.8	3,097	56.6	1,124	20.6	686	12.5	775	14.2	602	11.0
27	16,421	301.0	8,198	150.3	4,586	84.1	4,964	91.0	1,700	31.2	963	17.6	3,441	63.1	1,091	20.0	726	13.3	753	13.8	620	11.4
28	16,461	302.7	8,326	153.1	4,351	80.0	4,692	86.3	1,715	31.5	892	16.4	3,697	68.0	1,131	20.8	726	13.4	762	14.0	617	11.3
29	16,513	304.8	8,607	158.9	4,543	83.9	3,544	65.4	1,772	32.7	904	16.7	3,935	72.6	1,116	20.6	763	14.1	920	17.0	587	10.8
30	16,167	299.7	8,771	162.6	4,477	83.0	3,766	69.8	1,850	34.3	885	16.4	4,439	82.3	1,190	22.1	787	14.6	876	16.2	587	10.9
令和元年	16,494	307.2	8,677	161.6	4,193	78.1	3,699	68.9	1,759	32.8	853	15.9	4,738	88.2	1,187	22.1	812	15.1	899	16.7	604	11.2
2	16,632	310.5	9,050	168.9	4,159	77.6	3,106	58.0	1,684	31.4	847	15.8	5,422	101.2	1,244	23.2	836	15.6	796	14.9	619	11.6
3	16,830	316.1	9,539	179.2	4,087	76.8	2,792	52.4	1,743	32.7	875	16.4	6,207	116.6	1,278	24.0	856	16.1	808	15.2	617	11.6
4	16,782	317.4	10,011	189.4	4,204	79.5	2,792	52.8	1,912	36.2	908	17.2	7,298	138.0	1,347	25.5	853	16.1	815	15.4	667	12.6
5	16,558	315.6	9,840	187.5	4,046	77.1	2,883	54.9	1,907	36.3	928	17.7	7,668	146.1	1,298	24.7	872	16.6	864	16.5	647	12.3
6	16,567	318.4	9,810	188.5	4,177	80.3	3,167	60.9	2,025	38.9	811	15.6	8,506	163.5	1,298	24.9	819	15.7	796	15.3	638	12.3

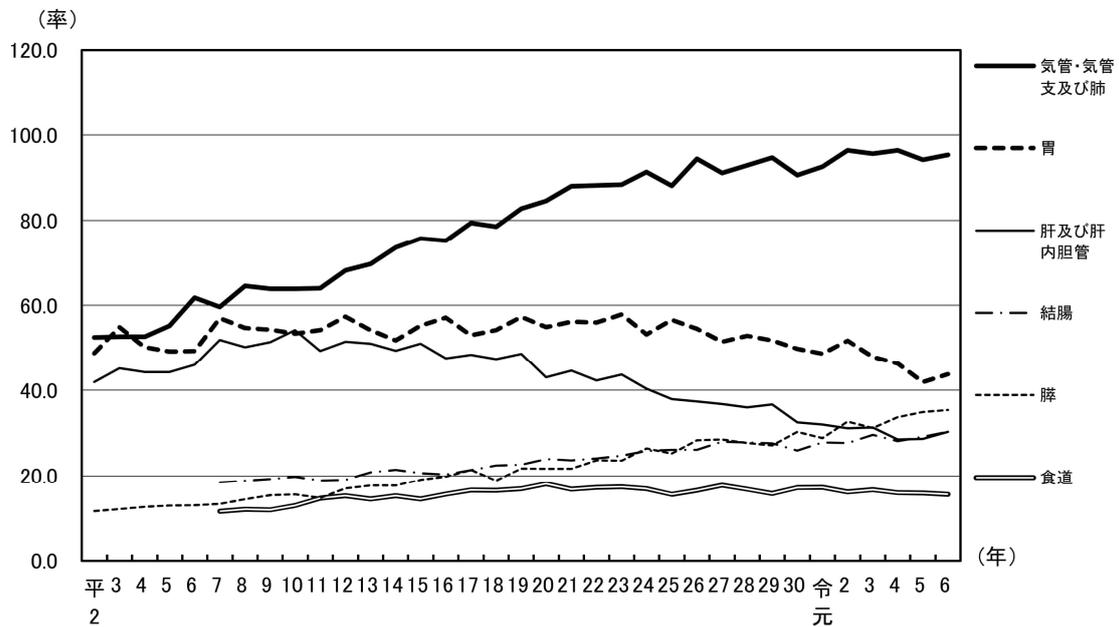
悪性新生物（第2-2図、第2-3図）

兵庫県においては、昭和53年に悪性新生物が死因順位第1位となって以降死亡数はほぼ毎年増加していたが、昨年は16,558人と前年より224人減少し、死亡率（人口10万対）も、315.6と前年より1.8減少した。

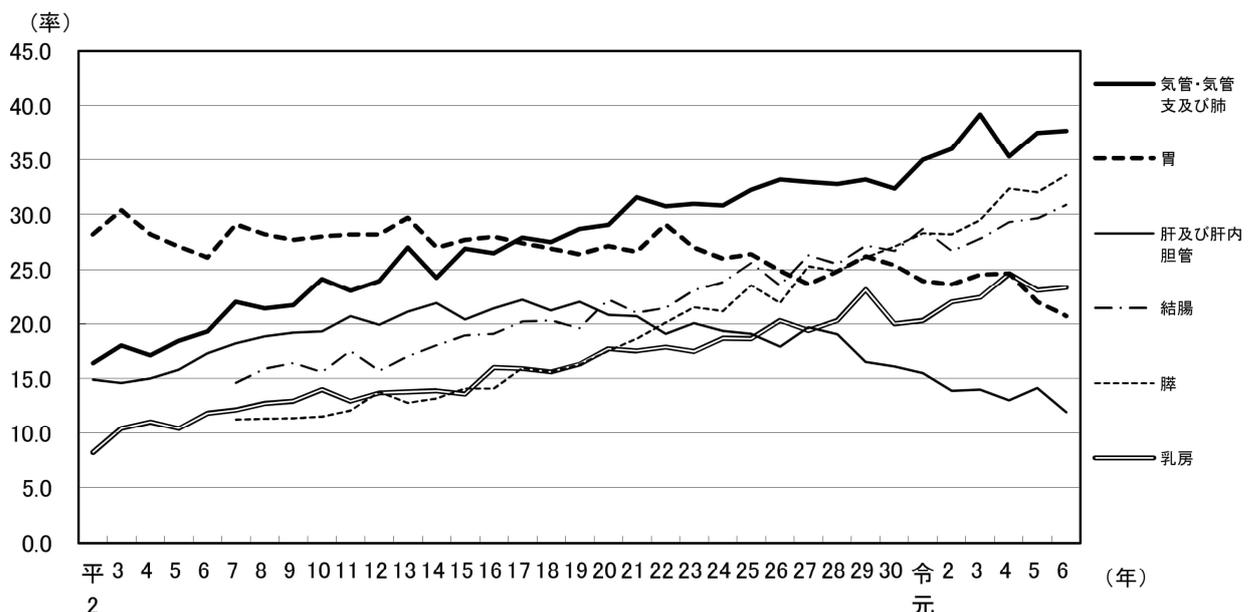
本年は、死亡数が16,567人、死亡率が318.4となり、ともに前年を上回った。

死亡率（人口10万対）を性別に算出してみると（統計表第2節第1表の数値/推計日本人人口）、男性が389.5、女性が254.1と男性が大きく上回っている。

部位別では（表2-2）、男性は気管・気管支及び肺が95.3、胃が43.8となっている。女性では、気管・気管支及び肺が37.7、胃が20.7となっているほか、膵が33.6、結腸が30.9、乳房が23.3で胃の死亡率を上回っている。



第2-2図 悪性新生物の主な部位別死亡率(男性)
年次推移(人口10万対)



第2-3図 悪性新生物の主な部位別死亡率(女性)
年次推移(人口10万対)

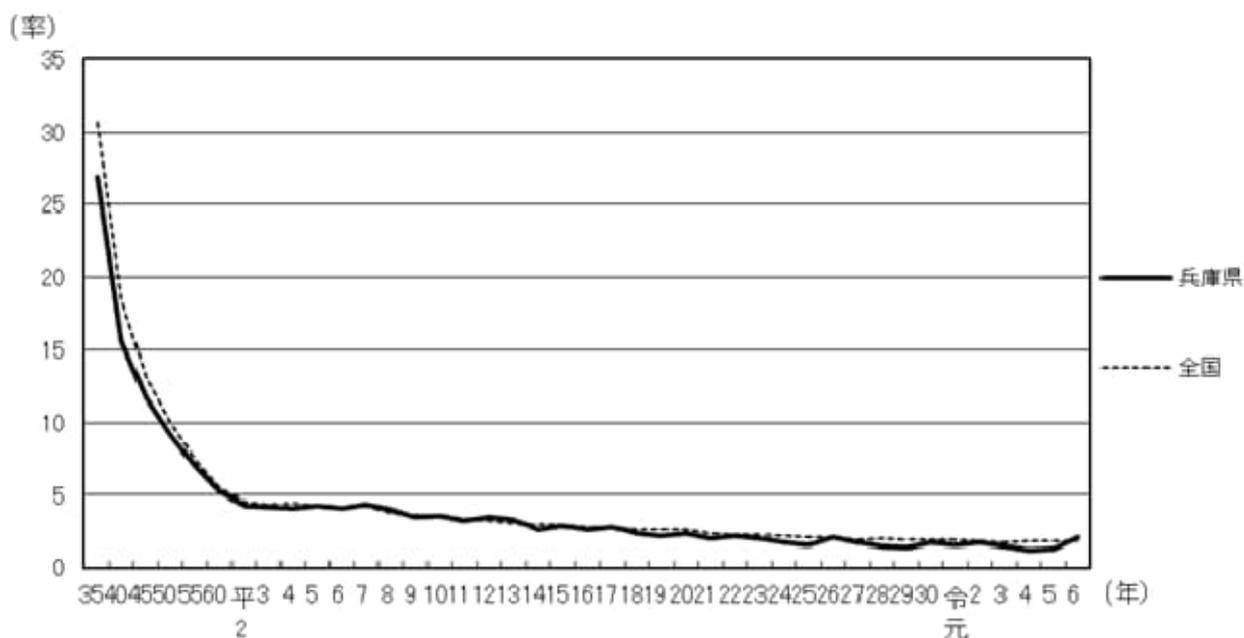
乳児死亡（第3図）・新生児死亡（第4図）

乳児死亡とは生後1年未満の死亡をいい、新生児死亡とは生後4週未満の死亡をいう。いずれも率は出生千対で計算される。

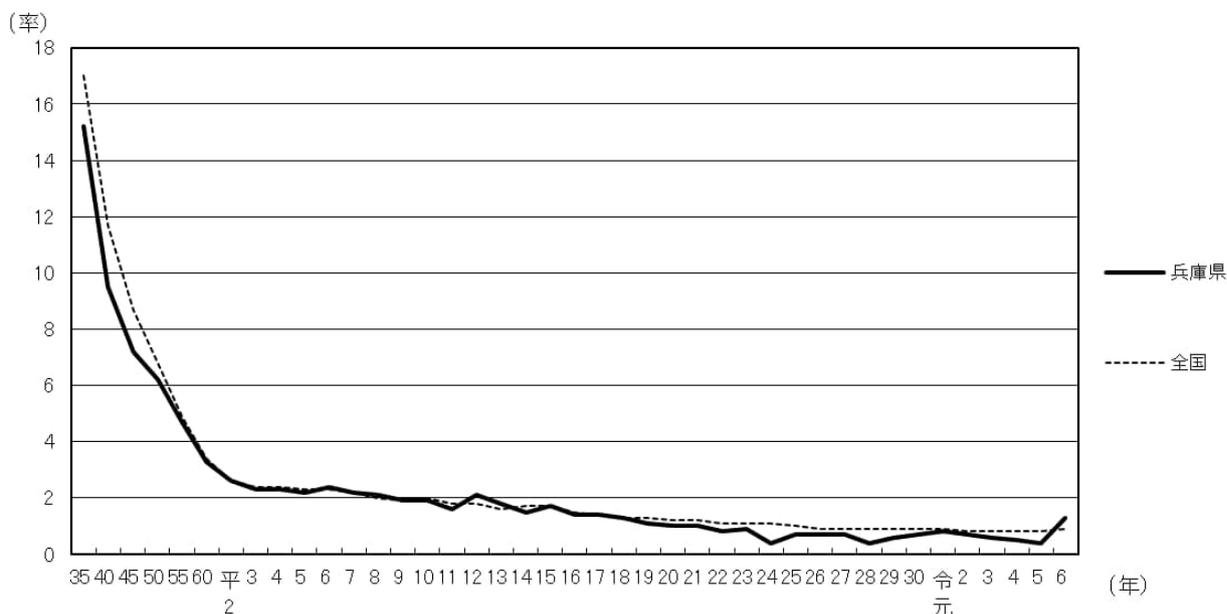
兵庫県の乳児死亡の状況を年次推移で見ると（統計表第1節第2表）、平成2年までは死亡数、死亡率ともに年々減少し、それ以降は平成7年まで横ばいの後、再び減少傾向にあったが、昨年、再び増加に転じた。本年は、死亡数64人、死亡率2.1といずれも前年を上回った。

一方、新生児死亡の状況を年次推移で見ると（同第2表）、乳児死亡とほぼ同様の傾向となっていたが、本年は、死亡数41人、死亡率は1.3と、いずれも前年を上回った。

圏域別にみると（表1）、乳児死亡率は北播磨が3.7と最も高く、新生児死亡率は阪神北が2.2と最も高くなっている。



第3図 乳児死亡率 年次推移(出生千対)



第4図 新生児死亡率 年次推移(出生千対)

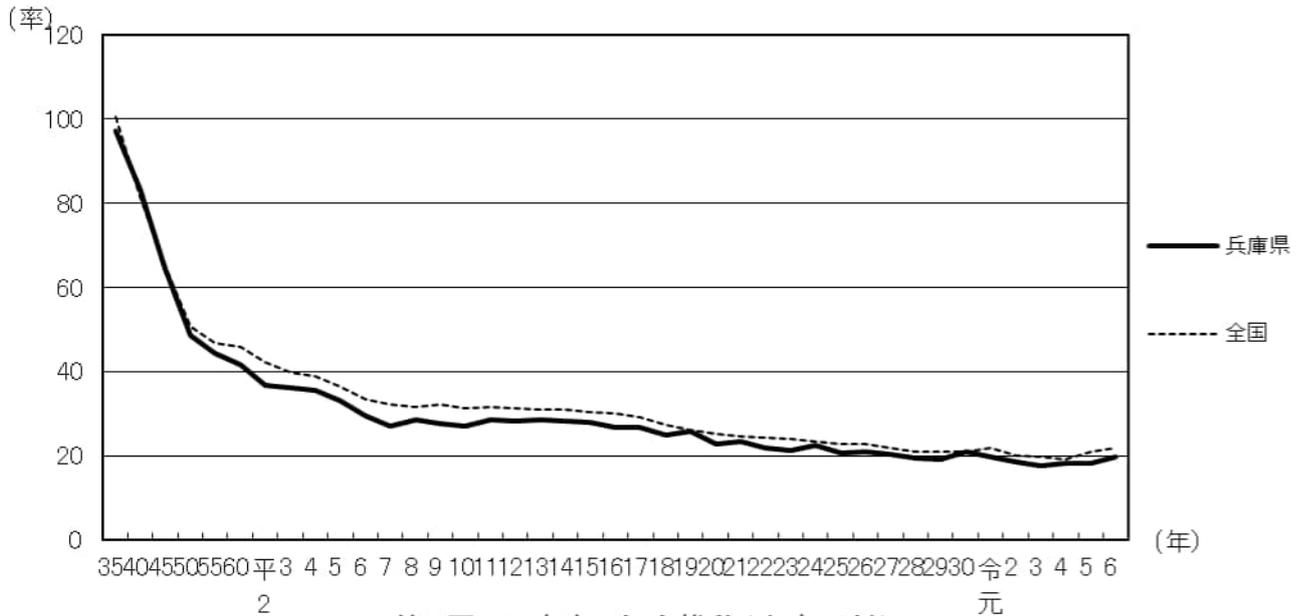
死産（第5図）

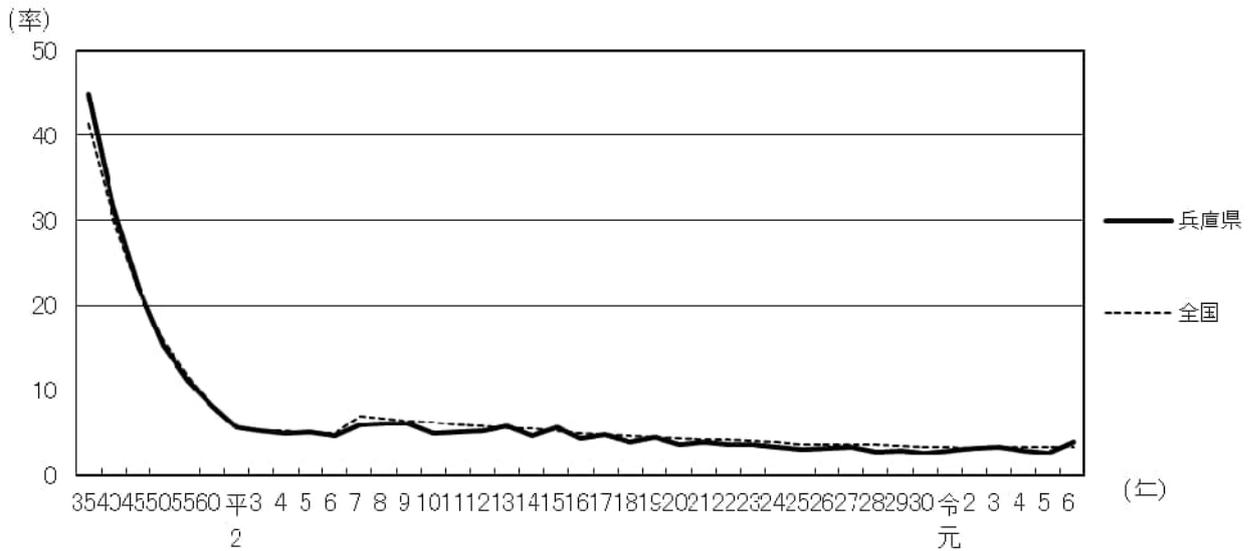
死産は妊娠満12週以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産とに区分される。

死産率は出生数に死産数を加えた数を分母とし、率は千対で計算される。

兵庫県の死産の状況を年次推移で見ると（統計表第1節第2表）、死産数、死産率ともに、平成15年以降減少傾向が続いているが、本年は、死産数が618、死産率が19.8で数、率とも前年を上回った。

死産率を圏域別にみると（表1）、丹波、淡路、西播磨が高くなっている。



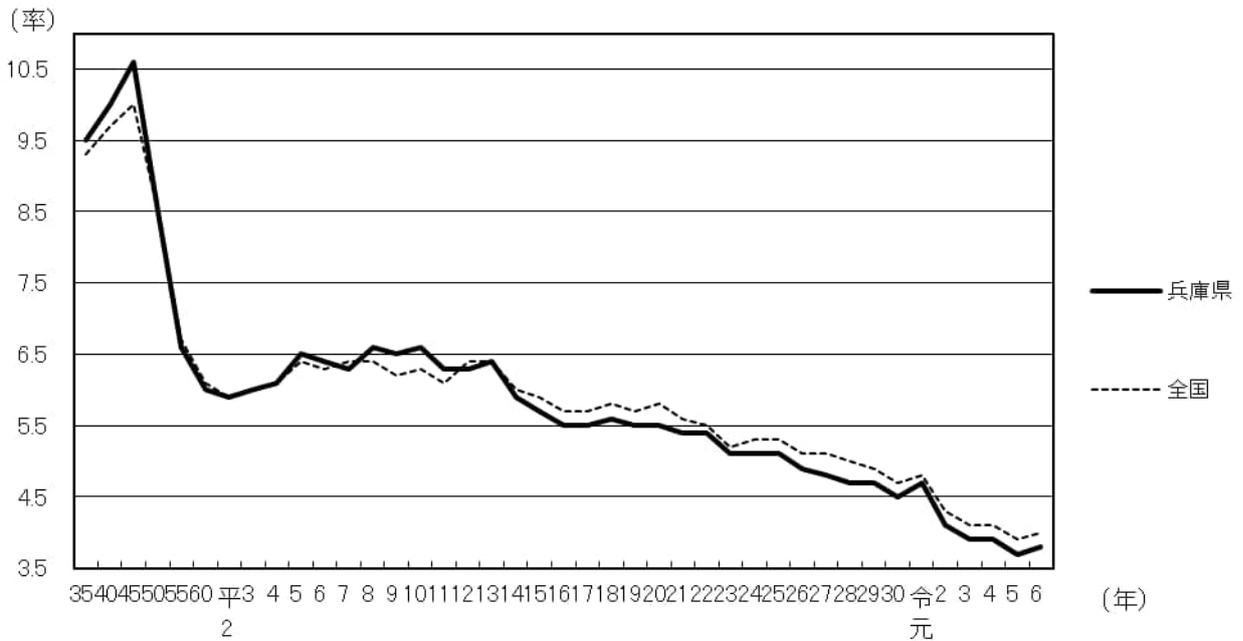


第6図 周産期死亡率 年次推移(出産千対)

婚 姻 (第7図)

兵庫県の婚姻の状況を年次推移で見ると(統計表第1節第2表)、婚姻率は昭和29年以降上昇し、昭和46年には11.1と戦後に次ぐ第二の婚姻ブームを迎えた。その後減少傾向を示したものの、昭和53年以降は5.6から6.9の間で増減を繰り返し、平成14年に再び減少傾向に転じている。

本年は、婚姻件数19,676組、婚姻率3.8で、件数、率とも昭和31年以降で最低となった昨年より微増した。圏域別にみると(表1)、婚姻率は阪神南、中播磨、東播磨が高くなっている。また、初婚・再婚の組合せ別で見ると(同第28表)、総件数に占める夫妻ともに初婚の組合せの割合は、本年は75.4%であった。



第7図 婚姻率 年次推移(人口千対)

離婚 (第8図)

兵庫県の離婚の状況を年次推移で見ると(統計表第1節第2表)、昭和50年に離婚率が1.0を超えて以降増加傾向が続いていたが、平成13年をピークとして以降減少傾向となっているが、昨年から2年続けて前年を上回り、本年は、離婚件数8,262組、離婚率1.59となった。圏域別にみると(表1)、離婚率は東播磨、阪神南が高くなっている。



第8図 離婚率 年次推移(人口千対)